
[成果情報名] イチゴ「あまおう」の少量ポット苗における低温暗黒処理の温度条件

[要約] イチゴ「あまおう」の少量ポット苗の低温暗黒処理では、処理期間中に 13 を 5 日または 10 日間を組み込むことにより黄化葉の発生が少なく、新葉の葉柄長が短く、頂花房の花芽分化率が向上する。

[キーワード] イチゴ「あまおう」、少量ポット苗、低温暗黒処理、処理温度、花芽分化、黄化

[担当部署] 野菜栽培部・イチゴ栽培チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作物] 野菜 [専門項目] 栽培 [成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

新品種「あまおう」の頂果房の花芽分化促進方法として低温暗黒処理を導入されている。冷蔵庫に入庫し 10 (3 日間)、16 (20 日間) の処理が 9cm ポット苗では花芽分化促進効果が安定する (平成 17 年度農業関係試験研究の成果) が、少量ポット苗の処理では古葉の黄化の進みが早く、出庫後の活着不良などがみられる。

そこで、少量ポット苗の 8 月に処理を始める低温暗黒処理における温度条件が、黄化葉の発生や花芽分化促進効果に及ぼす影響を明らかにし低温暗黒処理技術を確立する。

[要望機関名 : 生産流通課、北九州普及センター、築上普及センター (H15)]

[成果の内容・特徴]

- 1 . イチゴ「あまおう」の少量ポット (スーパーアイポット) 苗を低温暗黒処理する場合、13 の処理日数を 5 日または 10 日組み込むと花芽分化率 (生長点肥厚後期以上の割合) が高く、慣行 (9cm ポット苗の 16 処理) に近くなる。(表 1、図 1)
- 2 . 処理 23 日目の黄化葉は、スーパーアイポット苗では慣行 9 cm ポリポット苗より多いが、13 の処理日数を 5 日または 10 日間組み込むと少ない。(表 1、図 2)
- 3 . 処理期間中の新葉葉柄長の伸長量は、13 の処理日数が長いほど短く、徒長しにくい。(表 1、図 3)

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 「あまおう」の少量ポット育苗の花芽分化促進技術として活用できる。
- 2 . 1 コンテナに詰めたポット数は、20 ポットである。

[具体的データ]

表 1 試験区構成 (平成 16 年度)

ポット種類	処理温度		
	10	13	16
9cm黒ポリポット (270cc)	日間	日間	日間
	3	0	20
スパーアイポット (90cc)		0	20
	3	5	15
		10	10

注) 1.鉢受け: 6月4日、切り離し: 6月25日
 2.低温暗黒処理期間: 8月16日~9月8日
 3.陽光処理日: 9月3日, 9月6日
 4.コソナ内寸: 48cm×32cm×29cmH
 5.1コソナの処理本数: 20ポット

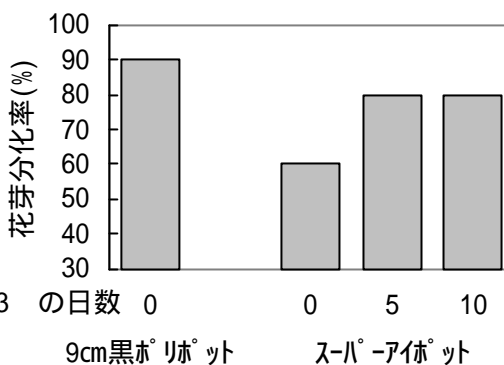


図 1 低温暗黒処理の処理方法と花芽分化率 (平成 16 年度)

注) .花芽分化率は、肥厚後期以上の割合

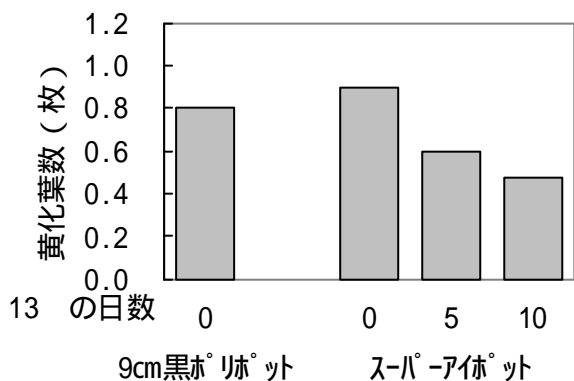


図 2 低温暗黒処理の処理方法と黄化葉数 (平成 16 年度)

注) .処理 23 日目後の調査

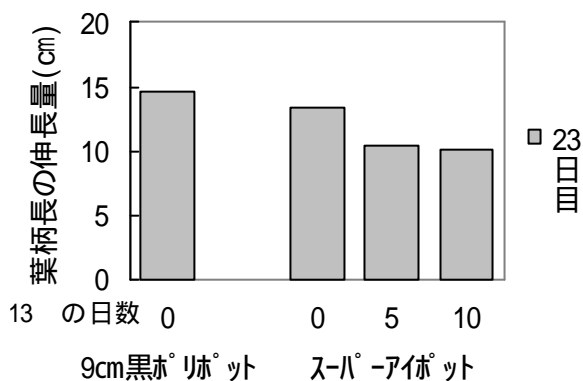


図 3 低温暗黒処理の処理方法と出庫時の葉柄長 (平成 16 年度)

[その他]

研究課題名: イチゴ「あまおう」の栽培技術の確立
 頂果房の花芽分化促進技術の確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成 16 年度 (平成 13 ~ 16 年)

研究担当者: 北島伸之、佐藤公洋